

2026年6月4日

記者各位

京セラ株式会社

2025年度日本セラミックス協会「セラミックス遺産」に認定 京セラのIC用セラミック多層パッケージと無冷却オールセラミック自動車エンジン

京セラ株式会社（代表取締役社長：作島 史朗、以下：京セラ）は、このたび、公益社団法人日本セラミックス協会が主催する2025年度「セラミックス遺産」に、当社の「大規模集積回路（IC）用セラミック多層パッケージ」および「無冷却オールセラミック自動車エンジン」の2件が認定されましたので、お知らせいたします。



東京都内で行われた表彰式の様子

■セラミックス遺産について

「セラミックス遺産」は、日本セラミックス協会が2025年度に開始した認定制度です。セラミックス分野における現存する「もの」を対象に、技術史的・文化的価値に加え、その価値を広く社会へ伝えるための保存継承活動も含めて総合的に評価し、認定するものです。

第1回となる2025年度は、推薦資格を有する同協会の支部長、部会長、特別会員代表者より推薦された12件の認定候補について、5件が正式にセラミックス遺産として認定されました。

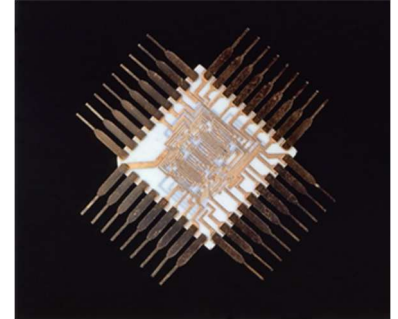
【セラミックス遺産認定制度 URL】

<https://www.ceramic.or.jp/act/award/heritage.html>

■世界初の「大規模集積回路(IC)用セラミック多層パッケージ」について

京セラは、1969年にIC用セラミック多層パッケージを開発しました。高精度な積層技術および内部多層配線をいち早く実用化することで、ICの高密度化、高信頼化の実現に貢献しました。

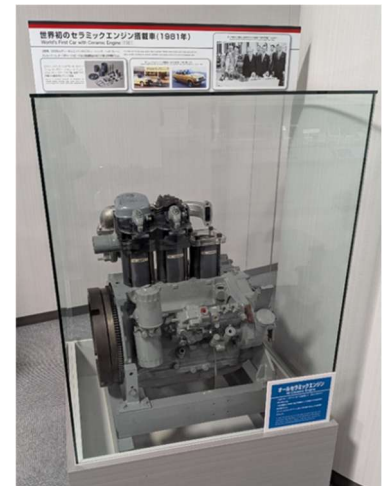
また、独自の同時焼成法により、小型・軽量で高い耐久性を有するパッケージを実現し、その後、情報通信、宇宙、医療など幅広い分野において活用されています。本件は、日本のものづくりを支えてきたファインセラミックス技術を象徴するものの一つとして、その技術的価値と産業貢献性が評価されたものです。



■世界初の「無冷却オールセラミック自動車エンジン」について

京セラは、1981年にオールセラミック自動車エンジンを搭載した車両による桜島（鹿児島県）での公道走行に成功しました。本開発では、3気筒・2,800ccディーゼルエンジンの主要高温部品に窒化ケイ素を採用し、無冷却運転を実現しました。

この実証走行は当時注目を集め、その後の耐熱セラミックス技術の進展ならびに日本におけるファインセラミックスの研究開発の発展にも寄与しました。本件は、先進的な技術開発の取り組みとして、技術史的価値および技術波及効果が評価されたものです。



● 報道機関からのお問い合わせ

京セラ株式会社 広報室 本社 TEL 075-604-3514 (直) / 東京 TEL 03-6364-5503 (直)